

|  |  |          |
|--|--|----------|
| 厚生新編   |  |          |
| A J-8, A J-9   |  | 馬場左十郎ほか訳 |
| ショメールの家庭百科事典の蘭訳本を原本とした翻訳書。当時の一流の蘭学者が30年以上にもわたって取り組んだ、洋学史上最大規模の訳業である。 |  |          |

- ◆ フランスの百科事典の蘭訳本の翻訳書。本書はショメール(Noël Chomel)が編集した家庭百科事典を原本とし、シャルモ(J.A.de Chalmot)が増補改訂したうえ、蘭訳したものを基にしている。この翻訳底本は、国立国会図書館に現存しており、詳細な調査報告が出されている。『厚生新編』の翻訳は、天文方に設置された蕃書和解御用(ばんしょわけごよう)の事業として、文化8年(1811)から開始され、少なくとも弘化2年(1845)まで続けられた。翻訳に従事したのは、当初、馬場左十郎と大槻玄沢の両名であった。その後、十余名の当代一流の蘭学者がその事業を継続した。その中でも最も功績が大きい人物として、大槻玄沢、宇田川玄真、宇田川焔庵の3名があげられる。

原本は項目をアルファベット順に並べているが、『厚生新編』では日常生活に供しやすいように部門を立て、項目を再編集した構成になっている。しかし、複数の担当者が原書の各項目を分担訳出し、これを項目別に再構成する際に大きな苦心があったらしく、項目の立て方は必ずしも整ったものではない。全体としては未完成稿本の段階で終わっていると言えよう。

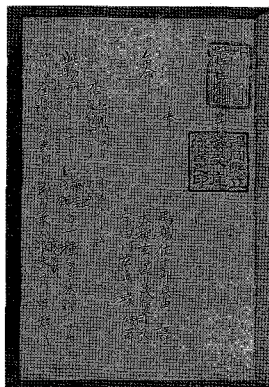
具体的な分類項目は以下の通りである。

生殖部 功芸部 医療治療部 疾病部 金石土部 禽獣部 鱗甲部 虫部 魚介部 産業部 食物部  
天文部 地理部 気候部 製造部 人身部 その他

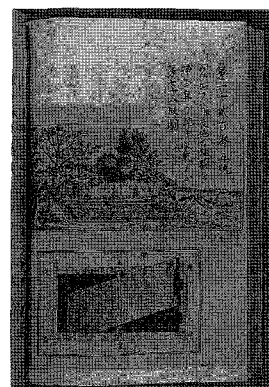
これらの分類項目から、科学技術方面を主として編集されていることがわかる。中でも植物関係が最も多く、これに次いで医薬、動物関係が多い。これは翻訳者に医家出身の蘭学者が多かったためと言われている。

- ◆ 当館は70巻(31, 32巻を欠く)の稿本(AJ-8)を所蔵している。各巻とも、「静岡学校」「静岡師範学校」の印記をもつ。当館の前身「葵文庫」の初代館長貞松修蔵氏は、この膨大な稿本を毛筆で写し、これを原稿とした活字本を昭和12年(1937)に刊行した。その後、新たに32冊の稿本(AJ-9)が発見され、これも当館の所蔵となった。

- <参考文献> 『厚生新編』(活字本)(035-1-2)  
『厚生新編』(当館所蔵稿本の完全な影印本)(035-3)  
『厚生新編訳述考』(S020-9)  
「蕃書調所旧蔵蘭書割記」(『上野図書館紀要』第一冊 所収)(Z01-11)



22  
厚生新編



22  
厚生新編